（一般診断法、精密診断法1による評点のバラツキに関する考察）

一般診断

・タイル壁亀裂
・一般室床鳴り

Case01　必要耐力算定方法　（略算法）（精算法）　筋違・壁下地材の種類　（明確）（不明）　劣化　（なし）（あり）

	基本強さ	配置	劣化	保有耐力	必要耐力	評点		総合評点	総合評点
2FX	24.26	1.00		24.26	17.56	1.38			0.83
2FY	19.29	1.00	1.00	19.29		1.09			
1FX	52.03	1.00		52.03	69.35	0.75	⇒	0.75	0.62
1FY	59.13	1.00		59.13		0.85			

Case02　必要耐力算定方法　（略算法）（精算法）　筋違・壁下地材の種類　（明確）（不明）　劣化　（なし）（あり）

	基本強さ	配置	劣化	保有耐力	必要耐力	評点		総合評点	総合評点
2FX	23.11	1.00		23.11	17.56	1.31			0.83
2FY	17.15	1.00	1.00	17.15		0.97			
1FX	61.42	1.00		61.42	69.35	0.88	⇒	0.88	0.73
1FY	70.72	1.00		70.72		1.01			

Case03　必要耐力算定方法　（略算法）（精算法）　筋違・壁下地材の種類　（明確）（不明）　劣化　（なし）（あり）

	基本強さ	配置	劣化	保有耐力	必要耐力	評点		総合評点	総合評点
2FX	24.59	1.00		24.59	18.88	1.30			0.83
2FY	19.62	1.00	1.00	19.62		1.03			
1FX	45.33	1.00		45.33	42.53	1.06	⇒	1.03	0.85
1FY	52.43	1.00		52.43		1.23			

Case04　必要耐力算定方法　（略算法）（精算法）　筋違・壁下地材の種類　（明確）（不明）　劣化　（なし）（あり）

	基本強さ	配置	劣化	保有耐力	必要耐力	評点		総合評点	総合評点
2FX	23.44	1.00		23.44	18.88	1.24			0.83
2FY	17.48	0.75	1.00	13.11		0.69			
1FX	54.72	1.00		54.72	42.53	1.28	⇒	0.69	0.57
1FY	64.02	1.00		64.02		1.50			

*壁配置による低減あり

仮に、配置の低減が無かったとしたら

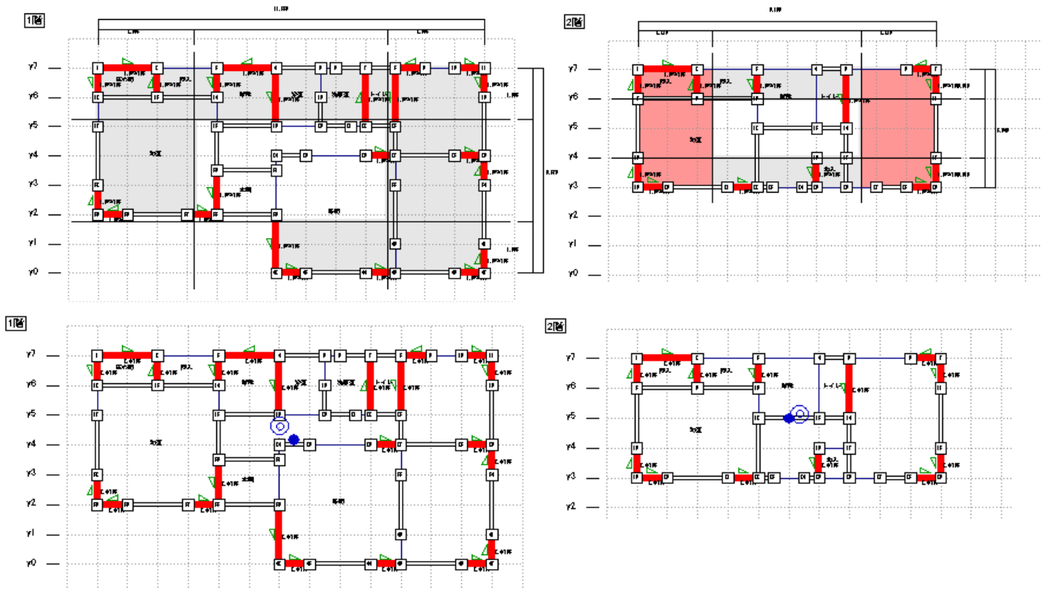
Case05　必要耐力算定方法　（略算法）（精算法）　筋違・壁下地材の種類　（明確）（不明）　劣化　（なし）（あり）

	基本強さ	配置	劣化	保有耐力	必要耐力	評点		総合評点	総合評点
2FX	23.44	1.00		23.44	18.88	1.24			0.83
2FY	17.48	1.00	1.00	17.48		0.92			
1FX	54.72	1.00		54.72	42.53	1.28	⇒	0.92	0.76
1FY	64.02	1.00		64.02		1.50			

★特記★　必要耐力計算法はソフト利用なら、精算法を用いるべき（略算法は、あくまでも手計算のためのもの）
建防協ソフトは、略算法によるもの。評点は辛くでる傾向あり。
略算法においては、1階の評点が辛めにでる。
筋違（明確・不明）において、必ずしも「不明」が評点が辛いというものでない。
S56年以前（築25年以上）公庫仕様の建物は、大多数が壁量基準法ギリギリ、主要金物無しである。
　　劣化低減係数は、ほとんどが減点4以上（係数0.83以下）である。
一般診断は平面形状によるばらつきあり（平面4分割法による）
一般診断は調査者の個人差によるばらつきあり（主に劣化の評価による）

物件概要

プラン名称　30T南玄関　　床面積　98.54m2（1F：65.42、2F：33.12）
S56以前（S54年竣工　築27年）
仕様：公庫仕様　　屋根：重い　金物：Ⅲ なし　基礎：無筋　床：火打+荒床
壁配置のバランス良し（偏心率0.15未満）



精密診断1　（筋違・壁下地材の種類：不明の考え方なし）

Case14　必要耐力算定方法　一般診断精算法に同じ　筋違・壁下地材の種類　明確のみ　劣化　（なし）

	基本強さ	剛性率	偏心率・床剛性	保有耐力	必要耐力	評点		総合評点	総合評点
2FX	23.45	1.00	1.00	23.45	18.88	1.24			
2FY	16.71	1.00	1.00	16.71		0.88	⇒	0.88	
1FX	49.18	1.00	1.00	49.18	42.53	1.15			
1FY	49.82	1.00	1.00	49.82		1.17			

部位別劣化あり（浴室、台所、廊下床鳴り）

Case15　必要耐力算定方法　一般診断精算法に同じ　筋違・壁下地材の種類　明確のみ　劣化　（なし）（あり）

	基本強さ	剛性率	偏心率・床剛性	保有耐力	必要耐力	評点		総合評点	総合評点
2FX	23.45	1.00	1.00	23.45	18.88	1.24			
2FY	16.71	1.00	1.00	16.71		0.88	⇒		0.88
1FX	49.18	1.00	1.00	49.18	42.53	1.15			
1FY	49.82	1.00	1.00	49.82		1.17			

★特記★　精密診断が最も精度が高い。
精密診断は調査者によるばらつきも少ない。
補強計画は、精密診断で行うべき。
一般診断と精密診断の評点で、必ずしも一般診断が辛いものでもない。
一般診断は、劣化の評価が総合評価へ与える影響が大である。
一般診断と精密診断で相関関係はなし。